

第 62 回実技セミナー in 東京

基礎コース&スキルアップ



開催報告

開催日時：平成 30 年 3 月 17 日（土）10 時～16 時 30 分

開催場所：ラックヘルスケア株式会社 東京オフィス

主催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会

共催：ラックヘルスケア株式会社

後援：株式会社クリニコ 日清オイリオグループ株式会社 渡辺商事株式会社 株式会社大塚製薬工場

<敬称略>

開催目的

- 包括的な食支援に関する知識や技術を得ることができる。
- ベッド上、車いすでの基本姿勢と五感を活用する食事介助方法が理解できる。
- 食べる力を引き出す、ベッドサイドスクリーニング評価の方法を理解することができる。
- グループ毎のレディネスに沿った演習を通して、自施設においての実施に繋げることができる。
- 包括的な食支援に関する知識や技術を得ることができる。

～KTSM 実技認定者（講師・アドバイザー）一覧～

<敬称略>

| 氏名 | 所属 | 職種（摂食嚥下に関する資格） |
|-------|---|---|
| 小山 珠美 | NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事長 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院 | 看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者 |
| 山下ゆかり | 医療法人社団 永研会 ちとせデンタルクリニック | 歯科衛生士 KTSM 実技認定者 |
| 剣持 君代 | 公益社団法人 群馬県医師会 群馬リハビリテーション病院 | 看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者 |








～セミナーサポート～

| 氏名 | 所属 | 職種（摂食嚥下に関する資格） |
|-------|------------|-------------------|
| 砂山 明子 | 都立駒込病院 | 看護師 KTSM 実技認定者 |
| 大石 朋子 | 東京情報大学看護学部 | 看護師 KTSM 実技認定者 |

アンケート集計結果（全参加者 33 名 回答者数 23 名）




職種

23

| 回答 | 票数 | % | |
|-----------|----|-----|--|
| 医師 | 0 | 0% | |
| 看護師 | 10 | 43% |  |
| 歯科医師 | 3 | 13% |  |
| 歯科衛生士 | 1 | 4% |  |
| 栄養士・管理栄養士 | 2 | 9% |  |
| 言語聴覚士 | 4 | 17% |  |
| 作業療法士 | 0 | 0% | |
| 介護職 | 1 | 4% |  |
| 薬剤師 | 0 | 0% | |
| その他 | 2 | 9% |  |

経験年数

23

| 回答 | 票数 | % | |
|--------|----|-----|--|
| 1～4年 | 6 | 26% |  |
| 5～9年 | 1 | 4% |  |
| 10～19年 | 8 | 35% |  |
| 20年以上 | 8 | 35% |  |

勤務施設

23

| 回答 | 票数 | % | |
|------|----|-----|--|
| 病院 | 11 | 48% |  |
| 施設 | 4 | 17% |  |
| 診療所 | 2 | 9% |  |
| 在宅訪問 | 3 | 13% |  |
| その他 | 3 | 13% |  |

参加前と参加後で考え方がどのように変化しましたか？

◆KT バランスチャートを NST で活用していましたが、アセスメントが弱く、何をすべきかという、実施までが、できていませんでした。今回、KT バランスチャートのつけ方を学び、いつ、だれが、なにを、どするか、ということまで、具体的に計画し、評価していきたいと思います。

◆参加後は食べる事が単なる食事介助ではなく根拠がある包括的な支援だと感じました。チャートで数字化し見える事でどう具体的に支援すれば良いのか分かりやすいです。私は利用者さんは臥位が楽だと思ってましたがそれは優しい虐待で重力の事を考えていませんでした。きちんと頭部を挙上し抗重力を考えたポジショニングを考えます。常に入居者さんと接している介護職員が意識もスキルも低いと思います。知識と気づきがなければ専門職へと繋ぐこともできません。今回のセミナーに参加してもっと深く学びたいと思いました。

◆まだまだ勉強不足を実感しました。嚥下チームもあり、活動もしているので、ktbc で包括的に支援するべきだとより感じました。慢性期で、しっかりと関われるからこそ、視覚的に明確になるツールが必要と感じました。ポジショニングや介助方法など、きちんとなされていない場面が多々あり、それも摂食不良に繋がっているのではないかと感じました。きざみとろみの形態をムースに変更予定ですが、やはり早急に実現しなければと感じました。

◆KTSM の進化の速さについていきたいと思ってましたが、参加してやはり 3 か月ぶりくらいで小山先生やアドバイザーの先生方の背中を見失いそうになりそうなほど加速をしている KTSM。自分の覚悟を試されてるような感じになります。セミナーに参加することで同じ志を持った仲間たちと出会い、学べることは明日への勇気につながります。小山先生いつもありがとうございます。

◆KT バランスチャートの 13 の評価項目の関連性と活用方法がだいたいわかりました（もっと勉強しなければならないことがわかりました）。活用するためには、解剖生理学の知識を熟知し活用できることが重要であることも改めてわかりました。他の職種の方々と事例検討は大変勉強になりました。それぞれの専門領域の視点と立場での意見交換は対象者への関わりに非常に重要であることを体験から学びました。臨床でも日常的に多職種間での意見交換をしながら医療・看護をしていかなければと強く思いました。

◆食べられないリスクや弱みばかりに目が向いていた。参加後は食べられるために私たちは何ができるのか何をすべきなのか考え目的意識を明確にしてアプローチし、包括的に評価する視点が変化したと思います。

◆何か特別な視点だと思っていたが、普段自分が何気なく観察したり、ケアに取り入れていることが、ベースになっていたこと。もちろん、知らない知識、技術、観察ポイントもたくさんありましたが。食事形態については、自分の、知らないところで、進化していると知り、かなりショックを受けた。

◆参加前は患者さんの「口から食べること」を考える際、嚥下機能ばかり重視していたように思えます。そして、高齢だから、肺炎だからと、本来食べられる患者さんに、きちんとした包括的な評価、アプローチせずに、口から食べることを諦めていたように思います。今回、参加させていただき、食べられる、食べられない、その根拠をきちんと示し、何が足りないのか、何をしたら良いのか、考えなければならぬと改めて感じました。そのなかで目でみえる KTBC はそれらを考える上で大変有効で効率的だと感じました。

セミナーで学んだことをどのように現場で活かしていきますか？

◆今日学んだ評価や実践を学習会を通して伝達し、実際に事例展開を行いながら入院時の評価や評価会議のなかに取り入れていきたいと思いました。

◆KT バランスチャートをつけ、それに基づいて、計画をたて、1人でも、多くの患者が口から食べて退院できるよう、関わっていきます。また、今日学んだことを、他のスタッフにも伝え、知識の共有を行なっていきます。

◆訪問看護と連携し訪問時間でできる範囲をすすめてもらい、家族へも少しずつ教育できていけたらと思いました。食事介助でも、「自分が患者さんだったら」ともっと配慮していきたいと思います。

◆当院では KTBC をこれから取り入れていく予定です。そのためにもセミナーで学んだ評価項目の構成の理解等を伝達していきたいです。そして、それをもとに患者さんへよりよい医療、リハビリを提供したいと思います。

◆患者さんの弱みと強みについて理解し、メンバーで共通の介入ができるよう、口から食べるためのアセスメントをしていくことから始めていきたいです。

◆職場では、まだまだ食事は ST だけが見るものという認識の方が多いので、KTBC を用いて積極的に周りの方に食事支援について働きかけていきたいと思います。

その他、感想

◆他職種の方々のプロフェッショナルな意見をうかがえる講習会で大変勉強になりました。

この講習会の目的には「関係者へ教育的啓発ができる」とありますので、もう少し講習会に足を運んでポイントが抑えられる目を養いたいと思っています。

◆今回実技セミナーに続いて2回目の受講でしたが、バランスチャートの使い方（理論）が理解できて良かった。多職種での症例検討もとても役立った。が、経験年数のよって学びが違ってきます。討論時間、実技時間ともに、もう少し時間が欲しかった。ファシリテーターの力量にもよるなあ、と感じました。小山先生とスタッフの方に明日からのエネルギーをもらいました。ありがとうございました。

◆研修に参加させていただき、自分には知識も覚悟も足りなかったと思いました。それは経口摂取を開始しようときっかけをつくる覚悟であったり、開始しても大丈夫とまわりを納得させる知識や正しい評価であったり、臨床に戻り、担当患者さん一人ひとりをもう一度改めて、評価し、チャートで何が必要か考えたいと思います。

◆とても活気のある実践的なセミナーであったので勉強になりました。今回だけなのかもしれませんが、参加者に看護師が少ないように思いました。もっと多くの看護師がセミナーを受講し、口から食べる支援をしていく必要があると思いました。

～セミナー中の様子～



午前中は全体講義を行いました



提示事例を通してレーダーチャート作成し、アセスメントやアプローチ方法を学んだり、事例展開方法の疑問点などを検討しました。



グループ内で実施したい演習内容を決め、実技を行いました



口から食べる幸せの輪を広げましょう
みなさま ありがとうございます



NPO 法人 口から食べる幸せを守る会